

第4回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和7年7月28日（月）19時00分から

場 所 高砂市役所分庁舎1階大会議室

出席者

【委員】（名簿順、敬称略）

押田 貴久、安枝 英俊、塩田 和子、坂牛 裕、坂田 克己、橋本 尚人
三好 美弥、衣笠 彩、八木 直子、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一
砂川 辰義、山里 護

【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、吉金教育推進室長、平山学校教育室長
竹内教育総務課長、石原教育総務課主幹、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 1名

傍聴者 0名

内 容

- 1 開会
- 2 議題
 - （1）適正規模適正配置、少人数教育
 - （2）連続性のある小中一貫教育
 - （3）個別最適・協働的、探究的な学びへの対応
 - （4）その他
- 3 閉会

資 料

【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第4回）次第
資料1 適正規模適正配置、少人数教育
資料2 学校規模による事象と課題・効果等の整理
資料3 これからの学校像の見える化
資料4 連続性のある小中一貫教育
資料5 個別最適・協働的・探究的な学びへの対応

【当日資料】

資料6 みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～これからの学校を考えよう！
～

【投影資料】

高砂市新たな学校づくり推進計画策定等業務工程表（令和6・7年度）
第4回高砂市新たな学校づくり推進審議会資料の内容について

1 開会	
事務局	資料4に誤りがありましたため、該当ページを机上に配付しております。また、当日資料として資料6を配付しています。 前回同様、審議会の様子を撮影させていただきたいと思いますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。
会長	高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条の規定に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	市民代表の實川委員は欠席との連絡をいただいております。
会長	1名の委員が欠席ですが、過半数の委員の出席をいただいておりますので、高砂市新たな学校づくり条例第六条第2項により、本会は成立しております。 それでは、第4回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。
2 議題 (1) 適正規模適正配置、少人数教育	
会長	議題(1) 適正規模適正配置、少人数教育について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1 適正規模適正配置、少人数教育をお願いします。 1ページをお願いします。 小学校は1学校あたり12から18学級、1学年あたり2から3学級、中学校は1学校あたり12から18学級、1学年あたり4から6学級を標準として定められています。ただし、地域の実態その他により特別な事情があるときは、その限りではないとされていますので、この度、高砂市の方針を定めたいと考えています。なお、文部科学省の手引きでは、中学校は9学級までは全学年でクラス替えができ、同学年での複数教員配置や免許外指導の解消が可能な規模と示されています。 (2)をお願いします。1学級あたりの人数については国の法律を受けて、県の教育委員会が決定します。兵庫県では国と同じ基準となっており、小学校は今まで40人学級でしたが、段階的に35人学級に移行し、今年度から全学年で35人学級となりました。中学校は昨年度に国の方針が出され、令和8年度から3年をかけて40人から35人に移行します。 2ページをお願いします。 県内他市の適正規模の基準を掲載しております。小学校では、国の基準の12から18学級や12から24学級が多く、中学校では9学級から18学級や9学級から24学級が多い状況となっています。 3ページをお願いします。(3) 学校規模によるメリット・デメリットです。 こちらは文部科学省の資料で、小規模になると児童生徒一人ひとりに目が届きやすくなる、相互の人間関係が深まりやすい、異学年交流が生まれやすいといったメリットもありますが、集団生活の中で得られる多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会、人間関係の固定化や教員の負担増大といったデメリットがあるとされています。一方で、大規模になりすぎると、集団生活の中で得られるメリットはありますが、児童生徒一人ひとりの把握や個別活動の機会などが設定しづらい、施設利用の面から制約が生じるといったデメリットが生じてくるとされています。 資料2 学校規模による事象と課題・効果等の整理をお願いします。高砂市内の学校に当てはめた場合のメリット・デメリットです。小規模なら小規模、大規模なら大規模に応じてさまざまな工夫をして対応されていますが、やはり学校規模は大きすぎても小さすぎても課題が出てくると考えられます。 資料1の4ページをお願いします。 11月に実施したアンケート結果では、小学校は1学年3クラスもしくは4クラ

スが望ましいという回答が多く、学校全体では18学級もしくは24学級の規模となります。中学校は1学年4クラスもしくは5クラス以上の回答が多く、学校全体では12学級もしくは15学級以上の規模となります。クラス替えができる、いろいろな人の考え方に触れる機会が多いという理由が多くありました。

5ページをお願いします。(5) 少人数指導と少人数学級についてです。

今年の2月に実施した説明会で、市民の方から「学校が小規模化すると、1教室あたりの人数が減ってきめ細やかな指導につながるので、校区再編はまだ良いのではないか」というようなご意見もいただきました。

小規模化すると学級数は減りますが、1学級における人数は必ずしも減るというわけではありません。例えば、36人ですと18人の2学級となりますが、1人減って35人になりますと35人1学級となります。一方で、学級数が減っても学校の業務量は比例して減りませんので、教職員の一人当たりの負担は増加します。そのため、きめ細やかな指導につなげるためには、こちらの2種類の指導形態を取ることが有効だと考えられます。

1つ目の少人数指導は、1学級を少人数のグループにして指導を行うことです。習熟度別指導やティーム・ティーチングなどがあります。

2つ目の少人数学級は、1学級の人数を減らすことです。

少人数指導も少人数学級も少ない人数で授業が実施されますので、きめ細やかな指導につながり効果があると考えられますが、少人数指導は効果が高い科目でのみ実施しますので、少ない教員の数で対応ができます。しかし、担任教員の負担軽減にはつながりません。一方、少人数学級は担任の負担軽減につながりやすいですが、その分増加する教員の給与は市が負担する必要があります。

6ページをお願いします。(6) 少人数学級を導入した場合の必要教員数・給与負担額シミュレーションです。

現在、高砂市では県より加配を受けて、少人数指導を実施しています。もし少人数学級とするならば、増加した学級に加配する教員については高砂市が負担することとなります。25人学級を実施した場合の市の負担額は年間6億円弱となり、30人学級を実施した場合は年間2.5億円を市が負担することとなります。ただ、教師不足が非常に深刻ですので、先生を配置できない可能性もあり、ある自治体では少人数学級を実施していましたが、教員不足が生じていました。

7ページは以前の審議会資料の再掲なので、説明は省略します。

8ページをお願いします。(7) 望ましい学校規模の考え方です。

これらの内容を踏まえて、高砂市としての望ましい学校規模の基準を検討しました。①前提条件として、学校規模は学級数で定めることとし、1学級あたりの児童数は国の法律に準じて35人、1学級あたりの生徒数は政府の方針に則り35人とし、少人数指導及び少人数学級の効果は理解していますが、先ほどのコスト面や先生不足も踏まえ、1学級あたり35人で設定します。少人数学級については、引き続き、国や県に要望したいと考えています。②望ましい学校規模の基準(案)をお願いします。小中学校ともに一定程度の人数の子どもたち同士が関わり、切磋琢磨する環境や多様な意見に触れる機会、コミュニケーション能力が育ちやすい環境は必要であると考えています。児童生徒数推移やアンケート調査結果も参考にし、小学校は12学級から24学級、1学年あたり2学級から4学級、中学校は12学級から18学級、1学年あたり4学級から6学級を提案します。

委員からは「全国的な人口減少により、適正規模・適正配置に向かっていくと思います。行政が、保護者・地域を上手に巻き込んで進めていくことが大切だと思います。」というご意見を事前に頂戴いたしました。

9ページをお願いします。(1) 国の基準です。

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令では、小学校は通学距離が4km以内、通学時間が1時間以内、中学校は通学距離が6km以内、通学時間が1時間以内となっています。

	(2) は高砂市における通学距離で、高砂市の中心部にある竜山中学校から半径 4km の円を落としています。記載している距離は、各小学校区における一番長い通学距離で、最も長い通学距離は阿弥陀小学校・北浜小学校の 2.4km です。 10 ページをお願いします。 県内他市の通学距離・通学時間の基準を掲載しています。おおかた国の基準と同様としている市が多い状況です。 11 ページをお願いします。 11 月に実施したアンケート結果では、小学生の許容できる通学距離として、教職員は 2km 以内という回答が多い一方で、保護者・市民は 1km 以内という回答が多くありました。通学時間は 30 分以内との回答が多くありました。中学生はいずれの対象者も 2km 以内という回答が多く、通学時間は 30 分以内という結果になっています。 12 ページをお願いします。(4) 望ましい学校配置の考え方です。 ①前提条件として、文部科学省の手引きを踏まえて、学校配置は通学距離と時間で定めたいと考えています。②望ましい学校配置の基準(案)として、小学校はおおむね 4km、60 分以内、中学校はおおむね 6km、60 分以内を提案します。ただ、遠距離では地域の実情を踏まえた負担軽減策を検討するとしています。国の基準をベースに案を考えましたが、アンケート調査の結果とは乖離が出ています。これは、再編により現状の最長の通学距離を超える場合は、通学時の負担軽減策は検討すべきと考えていますが、今の時点では通学距離(何 km)という書き方ではなく、今後再編を検討する中で、一定程度通学距離の負担を軽減すべきところは検討したいと思い、このような表現としました。
会長	適正規模は小学校が 12 学級から 24 学級、中学校が 12 学級から 18 学級、適正配置は小学校がおおむね 4km・60 分以内、中学校がおおむね 6km・60 分以内、遠距離では地域の実情等を踏まえた負担軽減策を検討するという形の前案が提示されました。この基準を元に、今後のさまざまな議論が進んでいきますので、皆さんに理解していただき、議論したうえで決定したいと思います。
委員	提案いただいた学級数は、2 つの小学校から 1 つの中学校に統合されることが前提の数字だと思いますが、小中一貫教育では小中同じ学級数が前提になるので、その前提はどう考えたら良いのでしょうか。
事務局	再編する際には、最優先に適正規模を確保した上で、小中一貫教育を進めるにはどういう形式が良いのかを考えます。
委員	適正規模の決定後に小中一貫教育が適切となると、規模が変わってしまうのではないのでしょうか。
事務局	適正規模の決定後でも変わることはないと思っています。
会長	まずは小学校と中学校の枠で議論を進め、その枠に収まる規模の学校を作ることを目指すことになると思います。
委員	中学校の適正規模が 9 学級に設定されている自治体もありますが、高砂市ではなにか考えられていますか。
事務局	9 学級は全学年でクラス替えができ、同学年での教員配置や免許外指導の解消が可能なギリギリの状態です。高砂市は児童生徒数が比較的多いので、国と同様に 12 から 18 学級を提案させていただきました。
委員	他市が 9 学級を適正規模にしている事情は把握していますか。
事務局	他市で再編統合が進んでいるのは北部が多く、児童生徒数が減りきっている状況から、9 学級にせざるを得なかったと思われます。
委員	適正配置を小学校はおおむね 4km・60 分以内としています。4km を小学校 1 年生の児童が歩ける前提で考えているのですか。
事務局	現在が一番長い通学距離が 2.4km なので、これを超える地域は何らかの対応を検討したいと思います。ただ、現地の状況によっては距離や時間で表しきれない要因もありますので、各地区の状況を見ながら負担軽減策を考えたいと思い、この

	ような形で提案しています。
委員	負担軽減策として、送迎用バス等も検討されるのでしょうか。
事務局	遠距離通学は負担軽減策を検討しますが、バスを導入するかは今後の地域の状況を踏まえながら検討したいと思います。
会長	高砂市は 4km 以内に入ってしまうエリアですので、該当する児童生徒は少ないと思います。国の基準と同じ 4km・60 分、6km・60 分としていますが、年齢による違いを加味しながら負担軽減策を検討しますというのが今回の案です。負担軽減策としてスクールバスが一般的ですが、別の送迎手段や公共交通機関を活用することも考えられますので、特定はしていません。
委員	児童からは 2 クラスでも十分な友達関係やクラスの枠を超えた交流ができているという意見が多く、12 学級より大きい規模でなくても良いという見解が多数ありました。 1 学年 2 クラスあれば、クラスの枠を超えた交流が非常に活発に行われますので、小学校の 12 学級は適正規模だと考えます。
委員	中学校の適正規模は事務局の提案どおりで良いと思いますが、クラス数が少ないと人間関係や相互評価が固定化されてしまうので、小学校のクラス数は最低でも 1 学年 3 クラスが望ましいと思います。
委員	トラブルが起きても、クラス数が少ないとどこかの学年でクラスが同じになりますし、中学校に上がった時もクラス数が少ないよりは多い方が良いと思います。
委員	小学校は 1 学年 2～4 学級で良いと思いますが、21 人の 2 クラスなのか、35 人の 2 クラスなのかで違うと思います。中学校は 35 人の 4 クラスがあれば、色々な人間関係が築けるかなと思いますので、そういった裏の事情も含めて進めていけば良いのではないかと思います。
委員	人数が多かった学校は荒れていたという話を聞いたのですが、提案された適正規模について、子どもたちの落ち着き具合や学校の荒れ具合は、現場の方としてはどのようにお考えでしょうか。
委員	児童生徒数や学級数が多ければ、それだけ職員もたくさんいますので、目が行き届かないから荒れるということにはならないと思います。荒れるのは、教職員や地域との関係など様々な要因があり、学級数や人数はあまり関係ないと思っています。多ければ多い方がいいというわけではないので、やはり提案された適正規模が妥当だと思います。
委員	小学校の適正規模は提案どおりでいいと思いますが、18 人の 2 学級だと 36 人の 1 学級でも良いのではという話になる可能性もあるので、30～35 人の 2 学級が一番良いと思います。 最低限 12 学級でいいと思いますし、24 学級、18 学級に関しては、具体的に統廃合のところで折り合いをつけていくための数字なのかなと思います。
会長	基本的には事務局の提案どおり、小学校が 12 から 24 学級、中学校が 12 から 18 学級で良いのではないかといいことだと思いますが、今の事情を踏まえて、9 学級も検討していいのではないかといいご意見もありましたので、今回で決定するのは避け、他の方のご意見もいただきながら決定したいと思います。 小学校が 4km・60 分、中学校が 6km・60 分という適正配置の提案について、ご質問やご意見はありますか。
委員	国の基準では公立小・中学校の徒歩または自転車の通学距離についてと書いてあるので、通学方法が徒歩だけではなく自転車も含まれていることを改めて確認しておきたいと思います。自転車であれば通学距離がある程度あっても、時間的な部分はカバーできると思います。
副会長	事務局の提案に異論はないですが、資料 1 の 11 ページのアンケート結果を見ると、4km 以内でも 1 時間でも大丈夫と答えている方がどういう属性かわかると議論がしやすく、アンケート結果を活かすことができると思います。

委員	再編を進めた時にキロや時間の基準を持っておかないと話が進められませんという前提の数値だと考えるしかないと思いますが、具体的な再編案を説明しないと、これが適正なのかどうか分からないと思います。 これを基準としてもらって、あとは実情に合わせた負担軽減策が今後重要になってくると思います。
委員	具体的な再編案が決まってないからよく分からない話になっていると思います。
会長	具体的な再編案から決めてしまうとこの基準がぶれてしまうことになりますので、大枠で捉えた時にこの基準に当てはまってくるだろう、もう少し細かくなると、先ほど言ったような具体的な話が出てくることになると思いますので、今回は国の基準をお示ししています。 適正配置も今日で決定しませんが、多くの方にご了解いただけていると思いつつも、地域などで確認いただきながら、次の審議会で決めたいと思います。
3 議題 (2) 連続性のある小中一貫教育	
事務局	資料3 これからの学校像の見える化をお願いします。 学校がどう変わるのか、みんなで未来の姿をイメージし、共有できるものにしていきます。これは他市の事例ですので、本日いただいたご意見を基に、高砂市の新しい学校像として、連続性のある小中一貫教育はどういうものになるのか、新たな学習環境はどういったものになるのかをイラストにしていきます。 資料4 連続性のある小中一貫教育をお願いします。 1 ページをお願いします。第4期高砂市教育振興基本計画についてです。 教育振興基本計画の主要な取り組みとして、1-3-1 小・中一貫教育の発展、1-3-2 幼児教育の学びの充実と連携を掲げ、現在も小中一貫教育を進めているところ です。 2 ページをお願いします。小中一貫教育の制度概要についてです。 小中一貫教育を進めていく上で、制度は大きく2つあり、①の義務教育学校と②③が合わさった小中一貫型小学校・中学校です。 3 ページをお願いします。各制度の特色についてです。 真ん中あたりに義務教育学校と小中一貫型小中学校の教育課程の記載がありますが、9年間の教育目標の設定、9年間の系統性・体系性に配慮された教育課程の編成はいずれも同じです。義務教育学校は条例により設置し、1人の校長、1つの教職員組織で構成され、国が定める標準規模として、1学年あたり2から3学級となり、中学校の規模は3学級が標準となりますが、全国的にはこの基準より規模が大きいところも当然あります。小中一貫型小中学校には施設一体型、施設隣接型、施設分離型がありますが、設置基準・標準規模ともにそれぞれ国の基準が適用されます。現在の高砂市の小中学校は、この施設分離型と隣接型となります。 4 ページをお願いします。高砂市で進めている小中一貫教育の取り組みを挙げています。①ブロッケー貫教育推進会議について、子どもの学びと育ちの連続性を確保し、幼児教育からの系統的なつながりのある教育を実現することを目的として、ブロッケー貫教育推進プロジェクトを実施しています。中学校区を1ブロックとして、ブロックごとに幼稚園、こども園、小中学校の先生方で特色ある取り組みを検討し、進めているところです。②各ブロックにおける取り組みの一例は、抜粋して掲載させていただいております。 5 ページをお願いします。他市の事例を掲載しております。 大阪府豊中市立庄内さくら学園は、施設一体型義務教育学校の事例です。目指す子ども像の実現に向けて、特色ある教育活動を設定されています。右側に学校規模とありますが、前期課程と後期課程、それぞれ学級数と人数を書いています。 6 ページをお願いします。こちらは加古川市の両荘みらい学園の事例で、施設一体型の義務教育学校です。1年生から4年生を前期、5年生から中学校1年生までを中期、中学校2年生から3年生を後期とした4・3・2制と言われている区分

	で教育が行われています。 7 ページをお願いします。京都府京丹後市立久美浜中学校区の事例です。こちらは3つの小学校と1つの中学校による施設分離型小中一貫教育の事例で、保育園、幼稚園、小学校、中学校の一貫教育となっており、1・4・3・2 区分と言われています。 8 ページをお願いします。久美浜中学校区の一貫教育における交流の様子を掲載しております。 9 ページをお願いします。今までの審議会や意見交換会、アンケートなどで市民の方々からいただいた意見等を掲載しています。高砂小学校・中学校・こども園は近いので、こども園からの15年間の連続性のある計画を実施していますというようなご意見もいただいております、施設の距離感が重要な要素と考えられます。意見交換会では、施設一体型小中一貫教育はあり得るのかという意見があり、あり得ると考えております。また、小学校に中学部の設置や4・3・2 制の検討など前提から考えられないかというようなご意見をいただきました。この計画の中で答えが出るかどうかは別として、4・3・2 制も検討が必要だと考えております。アンケートでは、小中一貫校にすれば先生の負担が小さくなるんじゃないか、義務教育学校だったら負担が少なくなるんじゃないか、そういったご意見もありますが、負担が大きくなる恐れもあります。 10 ページをお願いします。 これらの意見等も踏まえた今後の方向性（案）です。小学校及び中学校の再編にあたっては、各々の学校規模を確保した上で、小中一貫教育の推進が図れるよう検討を行いたいと考えております。小学校と中学校を施設分離型で再編検討する場合、施設相互の距離をできるだけ短くなるよう配慮したいと考えております。また、再編後も児童生徒数は減少すると予測しており、学校規模の変化が生じた際には、さらなる再編も検討が必要だと考えております。小中一貫教育は分離型でも可能であると考えていますが、施設一体型が一番望ましい形です。 委員からは、高砂中学校区以外は、校舎間の垣根が大きいと感じており、カリキュラム作りを通して、小中の教員がお互いに話し合える関係を築くことからがスタートだと思います。というご意見をいただき、先生方のたくさんのやりとりが小中一貫教育を進める上で必要だということかと思えます。
会長	市の方針として9年間の義務教育学校を進めていくとなった場合に、小中のつながりを、教育内容に関しても、施設面に関しても、あるいは校区面に関しても、よりつながりのある学びが提供できるような学校教育が一つ大きな方向性と思います。 高砂市でも小中一貫教育を進めていくときに、どんな姿を目指すべきなのかという方向性が示されていますが、ご質問やご意見をいただければと思います。
委員	高砂小・中学校では小中一貫教育がうまくいっているとよく聞くのですが、小学校は2クラス、中学校は5クラスほしいという話がありましたが、それが一番望ましい状態なのですか。
委員	5クラスになっても対応は可能ですが、通常学級以外は空調が入っていない教室が多いので、施設の改修は必要だと思います。
委員	規模が大きくても荒れないのであれば、先生方の負担も減るし、優位な部分もあると思うので、小学校5クラス、中学校5クラスがベストだと思います。
会長	義務教育学校は18から27学級が国の基準ですが、1学年5学級の義務教育学校は成立すると思います。 規模や地域性、先生方の実践の取組みのおかげで高砂小中学校の小中一貫教育がスムーズに進んでいると思いますが、全市的に見た場合にはここが課題だという現場の状況を教えてください。
委員	高砂小中の一貫教育がうまくいっていると言っていますが、幻想だと思います。施設が隣接しているので行き来がしやすく、交流も他の校区と比べれば進んでい

	と思いますが、本来の目標が十分に達成できているかという点、必ずしもそうではないと思っています。各学校の管理職のリーダーシップの発揮具合によっては、距離が遠くても十分に一貫したカリキュラムを進めることは可能だと思いますので、距離が近いからできているということではないです。ただ、進んでいることに間違いはなく、他の学校の先生たちは一様に高砂小中のような場所ならできらるうと思っています。 高砂小中はブロック会議でも連携できていますし、合同研修や子供たちの行き来も活発です。距離的な問題が大きく、荒井校区や米田校区でやれと言っても難しいと思います。
委員	小中一貫教育が必ずしも良いわけでもないのですか。
委員	小中一貫教育に効果があるのは体感していますが、高砂市の小中一貫はまだまだ難しい部分もあると思います。目指すべき小中一貫は素晴らしいですが、やり方や理念、指導のあり方、校長の考え方などは、もっと研修を積まなければいけないと思います。高砂小中の一貫教育は進んでいるし、取り組みの実績も経験もありますが、理想かと言われたら、違います。老朽化した校舎で進める教育活動よりも、新しい施設で、9年間の一貫したカリキュラムが実現されるのが理想だと思います。
委員	ソフト面でできていないことがあるかもしれませんが、建物を新しくして、9年間を見据えたカリキュラムを設定し、5クラス程度の規模がベストだと思われるのでしょうか。
委員	中学校単独であれば5クラスですが、義務教育学校では規模が大きすぎるので、1学年3から4クラスでも十分だと思います。
委員	小学校から中学校に上がっても、基本的に人数はあまり変わらないと思うので、同じ数じゃないと難しいのではないのですか。
委員	部活動の関係で指定区域外の中学校に通ったり、私立中学校へ進学する生徒も多少いますので、一概に同じ人数が上がるとは思っていませんが、学級数としては3から4クラスが理想だと思いますけど、義務教育学校で5クラスは多いと思います。
委員	施設が分離しているより一体のほうが管理はしやすいということですが、同一敷地内で小中一貫をすると、小学校から中学校に上がるときに人数が減る可能性が高いということですよ。同一敷地内で小中一貫教育を行うときに、他の小学校からクラスを増やすというような発想になるのですか。
会長	元々の規模をプラスでやるのは厳しいと思いますので、中学校4から5クラスになるような形で、9年生まで上られる形の学校が一つのスタイルになっていくと思います。
委員	高砂小学校と高砂中学校は隣接しているので、他の学校区に比べたら小中一貫教育は進んでいるとは思いますが。 ただ、昨年度より、そういうことを強みにして、カリキュラム作りから小中一貫教育をきちんと進めていこうじゃないかという動きを進めています。今年度、市の教育委員会が中心になってカリキュラムを作り、そして小中の教職員が交流することによってスタートしていこうという動きになっていますので、今後、他校の方でも進んでくると思っています。
会長	施設面と内容面と両方とも大事で、次の議題の方にもつながっていくことになるとは思いますが、基本的には9年間のつながり、さらに幼稚園・こども園とのつながりも必要ですが、私立と公立もありますので、全てをカバーすることはできないところです。教育委員会として今回の方針に基づいて、今後考えていければいいところです。
委員	高砂小中の一貫教育は小さいからうまくいっているという話でしたが、5クラス欲しいというのは矛盾してないですか。
委員	中学校単独の場合は5クラス欲しいが、義務教育学校の場合は5クラスとは思っ

	ていません。
委員	絶対に5クラスなのか、条件的に無理だから2から3クラスでも良いよみたいな話ですか。
会長	2クラスでうまくいっている部分もありますが、増えたら増えた形での良いモデルもできますという形になると思います。
委員	通学距離は高砂市は恵まれていると思うので、5クラスになるような場所と土地を設定すれば良いのではないかなと思います。
事務局	義務教育学校だと小中で同じ規模という話になりますが、まずは規模を確保し、施設一体型小中一貫教育を目指し、無理であれば分離型も検討するというように、小中一貫教育がしやすい方法を考えたいと思います。
2 議題 (3) 個別最適・協働的、探究的な学びへの対応	
事業者	資料5 個別最適・協働的、探究的な学びへの対応をお願いします。 1 ページをお願いします。 国の中央教育審議会は、令和3年1月の方針で2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」と名付け、目指すべき方向性を提示しています。令和の日本型学校教育において提示されている多様な教育・学習活動を自由に展開するためには、教育環境、学校施設にも大きな変革が求められることから、令和4年3月に、文部科学省から新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方が示されました。ビジョンとして、「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」の5つの視点で提案されています。 2 ページをお願いします。高砂市の取り組みです。 ①学校教育ビジョンです。高砂市では、「子どもが主役の学び」「ほっとかへん学び」「地域とともにある学び」を学校教育ビジョンとして取り組んでいます。②高砂 STEAM 教育です。探究的な学びの充実に向けまして、地元企業や行政と連携し、実社会・本物に触れ、探究する活動をする機会を増やす「高砂 STEAM 教育」に力を入れています。③個別最適・協働的、探究的な学びにおける高砂市の取り組みを掲載しています。 3 ページをお願いします。個別最適な学びの事例です。 子どもたちが個々に応じた学びを進めるにあたって、多様な学習集団・学習形態に対応するため、普通教室と多目的スペースの配置を検討した事例です。 4 ページをお願いします。協働的な学びの事例です。 多様な学習集団や形態に対応するため、多目的スペースではなく、小さな空間を普通教室の近くに配置して、すぐに集まって話し合いをできるよう配慮がなされたものです。 5 ページをお願いします。探究的な学びの事例です。 特別教室をその科目に特化したものではなく、汎用性を持たせた空間としまして、体験的な学習や創作活動に組みやすくしたものの事例となっています。 6 ページは探究的な学びのエコスクール、7 ページは ICT 教育の事例を掲載しております。 他市の事例を見ていただきましたが、こういったものを踏まえて、高砂市の学校がどういった個別最適・協働的、探究的な学びに対してどうあるべきかというようなことについてご意見をいただけたらと思います。 委員から事前にご意見をいただいておりますので、ご紹介します。従来の一斉授業から学びのスタイルを変えていくこと、知識構成型ジグソー法や自由進度学習など、子どもたちが効率良く学びを進める手法を教職員は多く持っておくことが必要な時代になっていますというご意見をいただきました。 様々な学習方法が実施される際に、学校施設としてどうすればより実施しやすくなるのかというのも前提にご意見をいただけたらと思います。
会長	従来の一斉型のスタイルから児童生徒一人ひとりの学びがこれから展開されていくわけですが、箱型の教室ではなく、多様な施設も必要になってくるので、学び

	やハードの関連性について皆さんからご意見やご提案があればお聞きしたいと思います。
副会長	高砂市の小中学校のあり方を考えるときに、最低限この基準にしようとか、これを目指にしようというのが議論の着地点だと思います。 例えば、個別最適な学びを促進するために、箱型の教室ではなく、こういう教室や座席の配置、黒板の設置だと先生方も促進しやすいということがあれば知りたいと思いますので、教えてください。
委員	教室にホワイトボードがあり、写真や映像を映したり、書き込んだりできるものがあれば、子どもたちの学びが一斉型ではなく、自分たちで学習を進めていけると思います。 また、グループで考えを深めていけるような空間もあれば良いと思います。 それから、教室には子どもたちの机ぐらいしかないのですが、少し広げて作業スペースみたいなものやグループで長机があって、すぐに動かせるようなものがあれば、子どもたちの活動が大変しやすくなるのではないかなと思います。
委員	個別最適な学びに絞れば、教室の中に折りたたみ式のテーブルが何台かあって、グループ活動のときに集まって必要であればそれを出し、必要なければたたむというようなフレキシブルな活用が良いかなと思います。 また、40 インチ程度のモニターが教室に何台かあって、ワイヤレスで画像を転送できる仕組みがあればグループ活動ですぐにアウトプットできると思います。 それから、児童生徒にも更衣室や個人のロッカーを持たせて、監視カメラを設置し、集中的に管理できる仕組みがあったら良いと思います。 最後に、タブレットが当たり前になっている時代なので、従来の机のサイズは小さすぎて、低学年の子どもが筆箱を落としたり、教科書を広げたら机がいっぱいになっています。広いスペースがないので、集中力が散漫になっているので、いろんなデータや資料を一読できないスペースは厳しいと思うので、設備や教室だけではなく、机のサイズも考えてもらえたらと思います。
副会長	教室や廊下の形も大事かもしれませんが、片付けられるロッカーとか DX と連動するタブレットの使い方、備品のあり方がそもそも教育の現場ではすごく関心を持っておられることがわかりました。 新設するのか改修するのかは、もともとの建物の性能にもかなり左右されますが、今の話は共通できる要素があるかなと思います。
会長	これからはプログラムを使った授業等のデジタルの環境にどう対応していくかが必要になってくると思いますが、実際に物に触れる体験的な学びも幼児教育の中から非常に重要視されていますので、実物と実際のものを体験できるような施設設備が必要になってくると思いますが。 そういう意味でも STEAM ということを一つ、高砂でも掲げていますので、そういった環境整備も一つの柱として考えていただけると良いかと思います。
2 議題（4）その他	
事務局	今後の工程について説明させていただきます。 次回、8月27日に第5回を開催いたします。給食、サポートルーム、特別支援学級、複合化・共用化など多くのテーマを設定していますので、ご意見等を事前にお聞かせいただけるとより良い議論につながると思います。 今年の目標である適正規模適正配置基本方針策定に向けてこれからの学校像を作っていくのですが、児童生徒や教職員等に意見聴取を行っているところで、改めてご報告させていただきます。 資料6 みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～これからの学校を考えよう！～をお願いします。 9月20日と28日に市民ワークショップを開催する準備を進めているところです。 広報たかさごに載せる予定の文章です。「みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～これからの学校を考えよう！～」という題名で、ワークショップをしたい

	と思っています。前はスタートアップとして、高砂市の小中学校の現状と課題を共有し、意見をいただきましたが、今回は皆様のご意見をできる限りいただきたいと思い、テーマごとにブースを設定しますので、自分が話したいテーマのブースに来ていただいてご意見をいただくことを考えており、できる限り意見をいただく時間を取りたいと考えています。ただ、これについては参加者がいなければ何も話が始まりませんので、審議会委員の皆様には呼びかけをしていただき、できる限りご意見をいただける形を取れたらなと思っています。
会長	9月20日、28日に市民向けのワークショップをしますので、ぜひ皆さんもご参加ください。
委員	関心がなく参加者が少ないという問題があるので、スクリーン等に複数回配信し、保護者の目につくようにしたら、少しは改善すると思います。
会長	委員の方からそれぞれの地域の方々にお声掛けいただけるとありがたいと思います。適正規模適正配置の話も先延ばしにしましたが、慎重に皆さんの意見を聞きながら決めていきたいと思いますので、持ち帰っていただき、ご意見をお寄せいただければと思います。
3 閉会	
会長	本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
事務局	委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。 次回もこれからの学校像の具体化に向けた検討が続きますが、よろしくお願いいたします。
教育長	各議題について具体的なイメージがそれぞれ違っている部分もあったのかなと感じたのですが、十分な議論はまた改めてできると思っています。ただ、皆さんの発言の中から良い教育を作ってほしいという思いを感じました。 本日はありがとうございました。
会長	以上を持ちまして、第4回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。